武蔵村山市立小中一貫校
大南学園第四中学校
学園だより　第１号
令和８年４月９日

大南の軌跡

50年目のスタートにあたり

武蔵村山市立小中一貫校大南学園
第四中学校　校長　　福泉　宏介

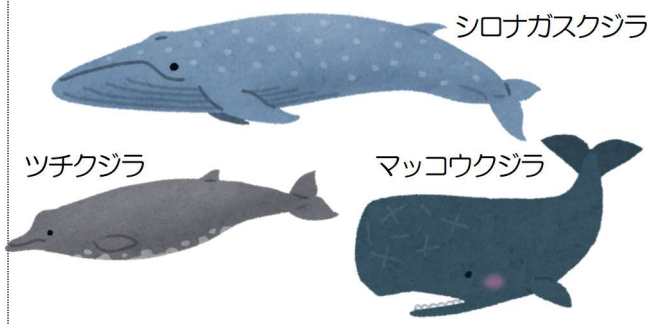
本校、武蔵村山市立第四中学校が大南のこの地で開校したのが昭和52年のこと。それから今年で50年目を迎えました。地域の学校として小学校と連携して「大南学園」となったのが10年前。その歴史と、これまでの四中に関わる全ての人のおかげで、今年50年目を迎えることができたと考えています。

さて、令和８年度の本校の教育活動ですが、「安全・安心な環境の中で伸び伸び学び、生きる力を身に付ける」という基本方針は変わりません。中学校と言うフィールドの中で、自分のやりたいこと、しなければならないことに全力で取り組み、卒業してから先の道を歩むための力を身に付けてほしいと、今年度も様々な教育活動を行っていきます。

しかし、大規模校ではないにしても、たくさんの人がいればたくさんの考え方、たくさんの思いがあります。時としてそれは自分と違う考え方や感性に触れて、自分の学びになったり、同じ方向を向いて取り組むことで相乗効果を生み出したりすることにつながります。また、280人の「仲間」が一緒に頑張っているのです。仲間の姿から学ぶことも多く、みんなでするから楽しい、ということもあると思います。切磋琢磨して喜びを分かち合える仲間がいる、これが学校の素晴らしいところです。

一方で、うまくいかずぶつかり合ってしまうこともあるでしょう。世の中を見ても、そういうことはたくさんあります。そんな時にどうするか、それを学べるのも「学校」というフィールドの存在意義です。自分と異なる生活、経験、体験。同じ言葉でも捉える意味は全く違うこともあります。その例として、私の経験をひとつ紹介します。

私は理科の教師なので、授業で「クジラの絵を描いてみよう」と描かせて、それを互いに見せ合わせていました。これが、人によっては頭の大きいマッコウクジラだったり、別の生徒はナガスクジラのスマートな体を書いたり。中にはイルカやシャチの絵を描く生徒もいました。ツチクジラはイルカに似ていますね。でも、これらは全てクジラの仲間なのです。（イルカもクジラ属で、体の大きさで分類されます。）



自分が思っているものと同じものを、他の人が思い浮かべているとは限りません。だからこそ、相手を思い、伝えたいことを分かりやすく正しく伝える、相手の言葉や意図を正確に聞き取る、文章から正しく情報を読み取る、といった力が必要になるのです。

今年度は、全学年で新聞記事を使ったワークシートを使って、「正確に読み取る力」を育てる取組をしていきます。一方で、「学び続ける姿勢」を身に付けてもらうためにも、自主学習ノートを使った家庭学習の推進により、学習意欲を伸ばす取組も行っていきます。

令和８年度も、第四中学校は家庭、地域そして小中一貫校として第七小学校とも連携しながら、生徒の力を伸ばす取組をしていきます。今年度も本校の教育活動に御理解・御協力の程よろしくお願いします。

＜メール配信アプリの登録と活用について＞

本校では、学校としては「校支援アプリ」、PTAとしては「マチコミ」と２種類のメール配信システムが使われています。２・３年生はそのまま前年度の登録を使いますが、新１年生はそれぞれ登録をしていただく必要があります。登録方法については改めてお知らせを配付します。

なお、学校への欠席・遅刻連絡については「校支援アプリ」を御使用いただきます。よろしくお願いします。

令和８年度　学校経営方針

小中一貫校大南学園第四中学校の教育目標

小学生の憧れとなるために

○　知を磨く生徒　　（自主・自律）
○　徳を積む生徒　　（共生・貢献）
○　体を鍛える生徒　　（健康・大志）

小中一貫校基準　「自分の考えをもち、理由をそえて説明できる生徒」

１　目指す特色ある学校像

小中９年間を通し、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を図る

〈生徒〉　確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランスよく身に付けた生徒

〈教師〉　生徒を温かく見守り、「主体的・対話的で深い学び」で学力を伸ばす教師

〈学校〉　コミュニティスクールの機能を生かして、保護者・地域と情報や理念を共有して小中一貫教育を進める学校

２　経営の具体策

（1）まちづくり学習、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

① 次代を担う市民として必要な資質・能力を育成するために、学校全体で各教科、総合的な学習の時間及び特別活動において「まちづくり学習」を推進し、地域や保護者と連携した探究的な学習を行い、よりよい地域づくりのために主体的に考え、行動する態度を養う。

② 言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を養うとともに、主体的に学習に取り組む態度を育てる。また、文章を正しく読み取る力の育成を図る。

③ 生徒一人１台端末、ネットワーク環境の有効活用により、個別最適化された学習の提供と、他者と協働して課題解決を図ったり考えを深めたりする学習の推進を図る。

④ 放課後や長期休業日に補充的な学習を実施する。また、自主学習ノートの取組を推進し、基礎学力の定着を図る。

⑤ 道徳でローテーション授業を行い、多面的に考え、自分事として考え議論する授業を行う。

⑥ 行事を生徒の実行委員を中心に創り上げ、自主的・実践的な力を育成する。

⑦ 職業理解学習・職場体験を通して、地域との関わりの中でキャリア教育を推進する。

（2）特色ある教育活動

① 定期的なアンケートを教育相談に活用するとともに、生徒指導の視点を取り入れた授業の充実を図り、生徒に寄り添い、不登校の未然防止と学校復帰に努める。

② コミュニティスクールの機能を生かした学校づくりを行い、小中一貫教育の取組を広く発信し、教育活動に外部の関心を集め、生徒、教職員の意欲の向上と生活態度や服務を正す。

③ 教員のライフ・ワーク・バランスの充実を推進し、教員の資質向上と安定した学校を目指す。

（3）生活指導・進路指導

① 人権教育を基盤とし、生徒一人一人を大切にするとともに、生徒の生命を第一に考え、安全・安心な学校生活に向け、小中一貫校として共通理解を図り、組織的に対応する。

② いじめ等の問題行動や不登校の未然防止及び早期発見・対応に組織的に取り組む。

③ 進路学習やキャリアパスポートの活用により、過去を踏まえ、将来を見通した進路指導を行い、自立心・向上心を育てる。

３　小中一貫教育推進に向けた方策

定期的に学園会議と担当者会議を開くことで

① 小中一貫校の意義を確認し、連携して「知・心・形の統合」を推進する。

② 小中合同で教科指導研修会やOJTを推進し、教師の授業力・指導力の向上を図る。

③ 生活指導の情報交換を踏まえて基本的生活習慣や授業規律の大南スタンダードを作る。

4月　行事予定

日	曜	4月　学校行事等
1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	春季休業終
7	火	始業式　着任式　入学式準備
8	水	第 50 回入学式
9	木	教科書配付　給食始　対面式
10	金	身体計測(ジャージ登校)　専門委員会
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	中央委員会
15	水	
16	木	
17	金	朝礼　安全指導　個人写真撮影
18	土	土曜活用日　学校公開　保護者会
19	日	
20	月	
21	火	全国学力調査(英語、質問紙)(3)　専門委員会
22	水	耳鼻科検診　避難訓練　　職員会議
23	木	全国学力調査(国･数)(3)　内科検診(2)
24	金	生徒会朝礼
25	土	
26	日	
27	月	尿検査１次
28	火	生徒総会リハーサル
29	水	昭和の日
30	木	尿検査１次予備　生徒総会
5/1	金	朝礼　安全指導　専門委員会　尿検査１次予備
5/2	土	

４月 18 日（土）は、１・２校時の授業を公開します。午後の保護者会についても別途通知します。

四中の様子をほぼ毎日Xで発信しています

武蔵村山市の学校では、X を使って学校の様子を配信しています。

本校でも生徒の授業や行事の取組の様子、給食についてなどを X で発信しております。

画像は個人が特定できないように解像度を下げたり個人情報を消したりして掲載しています。このことに関するお知らせも改めて学校からプリントで配布いたします。

もし御不明な点がございましたら、学校まで電話で御連絡ください。

なお、どのような様子かは、右の２次元コードから本校ホームページを開いていただき、そこにあるリンクを開くことで御覧いただけます。

本校ホームページへは
こちらからどうぞ。

なお、御覧いただくためには X のアカウント登録が必要となります。御了承ください。